

令和8（2026）年度第1回柏崎市男女共同参画審議会議事録(概要)

日 時 令和8（2026）年7月21日（火）15：00～16：55
会 場 柏崎市上下水道局 2階 会議室
出席委員 田村会長、板羽副会長、多々良委員、品田委員、前川委員、飯田委員、桑原委員、
柄澤委員、三宮委員 9人
(欠席：今村委員、吉原委員、福原委員)
事 務 局 総合企画部 林部長、人権擁護・男女共生推進課 泉課長、金子主幹、清水課長代
理、吉原主事 5人
議 事 柏崎市男女共同参画基本計画の推進及び評価について

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 議事概要

柏崎市男女共同参画基本計画の推進及び評価について

(事務局から資料1 令和7（2025）年度実績について説明)

- 議長 重点目標ごとに進めていきたい。重点目標1について、質問や意見はあるか。
- A委員 様々な啓発活動を実施していることは評価したい。しかし、参加者が同じ人に偏るなどの課題もあるため、その原因を分析し、より多くの市民が参加できる方法を検討していただければ、市民の理解もさらに深まるのではないか。また、保育園では、以前は紙の連絡帳で行っていた連絡に保護者向け連絡アプリ「コドモン」を活用している。学校でも SNS 等が活用されていることから、こうしたツールを事業の周知に活用してはどうか。
- B委員 小学校の連絡帳もオンライン化されており、QR コードを読み込んで翌日の予定等を保護者が入力する方法となっている。しかし、子育て世代の中にも、SNS 等による連絡よりも紙での連絡の方が分かりやすく、楽だと感じる人もいるため、そのような意見も大切にしたい方が良く考える。
- C委員 小中学校では、保護者向けのメール配信に加え、欠席連絡等に使用する「リバー」というアプリを活用している。添付ファイルの送信も可能であるため、学校だより等の保護者への配布にも活用されている。しかし、市の啓発活動や行事等の周知については、依然としてチラシなど紙媒体による配布依頼が非常に多く、学校現場では継続的に協力している状況である。
- 議長 「プラチナ世代」という言葉は、従来の「シニア世代」などの表現よりも前向きで、元気な高齢者や、まだまだ現役で頑張る世代という良いイメージがある。こうしたことから、かしわざき男女共同参画推進市民会議でもこの言葉を取り入れている。イベント等でも訴求しやすく、響きが良いという点も理由である。
- D委員 新しい言葉を積極的に取り入れることは良いが、まだ一般的に浸透してい

ない言葉であるため、広めていく際には、注釈や括弧書きで意味を補足する必要がある。「プラチナ世代」と聞いても意味が分からない人も多いと思うため、その点に配慮してほしい。

大学生を対象とした取組については、柏崎市内には大学が二つしかなく、対象となる学生も限られているため、市外に進学・就職した若者への周知や働きかけについて、就職やUターンを考える年代の人をいかに柏崎に呼び戻すかという視点が必要である。今後さらに検討を進めていただきたい。

議長 重点目標 2 について意見はいかがか。

B 委員 女性がさまざまな場面で活躍する機会が増えている一方、仕事と家庭を両立しながら、子育てや介護なども担うことで、負担が大きくなっている女性もいると感じる。女性の社会進出を促すだけでなく、女性が安心して生活できる基盤を整えるための支援も必要ではないか。働くことを過度に求めるのではなく、女性を支える取組についても検討してほしい。

A 委員 指標である、市の審議会等の女性登用率 40% を達成することが難しい。何か良い案はないか。

D 委員 本審議会は女性委員の比率が非常に高く、また、市の担当課長が女性となったことは評価できる。国会議員等における女性の割合を一定以上にするなど、女性の参画を進める取組を目指して活動している方もいるが、十分に実現していない。世界のジェンダー・ギャップ指数において日本の順位が低いのも、こうした状況が影響しているのではないかと感じる。

議長 重点目標 3 について意見はいかがか。コミュニティ協議会では役員は男性が多い一方、実際のイベント参加者は女性が中心で、男性の参加が少ないように感じる。役員だけでなく活動にも男女がともに参加できる工夫が必要ではないか。特に高齢男性は退職後に地域との関わりが少なくなる傾向が見られるため、地域活動への参加促進について検討が必要と考える。

D 委員 柏崎市のコミュニティ協議会の活動は、他市ではあまり見られないほど市からの依頼や周知、集金などの業務が集中しており、運営を担う職員や役員の負担が大きいと感じる。一方で、現役世代や若い世代が参加しにくい状況があり、高齢者中心になりがちである。

事務局 コミュニティ協議会の活動は、地域住民が自ら地域課題を考え、地域をより良くしていくことを目的として始まった自律的な組織である。活動への参加者は女性が多い一方で、役員は男性が中心となっており、女性役員の割合は約 25% で推移している。女性役員が増えることで、地域活動への参加の広がりや活性化につながる可能性があると考えている。

E 委員 町内会活動において、以前は町内会の役員本人だけでなく家族も一緒に行事へ参加するなど地域活動に関わるが多かったが、最近は役員本人しか

参加しないなど状況が変化している。また、地域行事への参加者も減少しており、コロナ禍を経て地域とのつながりが希薄化している。個人を重視する生き方が広がる中、従来どおりコミュニティ協議会を通じた周知方法が十分機能するのか疑問である。

また、子どもの進学先や居住地の選択は本人の意思が尊重される時代となっており、保護者としても子どもの希望を支援することが一般的である。そのため、進学や就職を機に県外へ転出した若者に地元へ戻るよう働きかけることには限界がある。若者の定住促進に向けた取組は重要であるが、その効果や情報の届き方については難しさを感じる。

F 委員 避難所運営に従事する女性職員の割合が増加していることは評価できる。災害時の避難所では、精神的にも身体的にも厳しい状況になることがあり、女性の視点には寄り添いの視点も含まれており重要である。今後も男女双方の視点を生かした避難者支援を継続してほしい。

C 委員 能登半島地震の際には、中学校の避難所へ男性職員 1 人、女性職員 1 人が派遣された。女性職員は細やかな配慮や気配りがあり、大変助かった。災害対応においては多様な視点が重要であり、今後も取組を継続してほしい。

議長 重点目標 4 について意見はいかがか。子育て以外の視点からのキャリア形成支援として、中堅層職員研修や介護に関する制度周知などを通じて今後のキャリアを考える機会を提供したことは評価できる。子育て支援に注目が集まりがちなか、多様な立場の職員を対象とした取組として意義があると感じる。

A 委員 U・I ターン就農者の事例のように、新規就農者が農産物の生産や販売に取り組んでいることは評価できる。若い世代の農業への関心も高まっていることから、補助制度等を活用しながら、U ターン・I ターンによる新規就農者の確保をさらに進めてほしい。また、農業法人化の推進など、若い人材が参入しやすい基盤づくりも重要である。

高柳地区では U ターンした若い世代がコーヒーショップを開業するなど、自ら仕事や産業を生み出し、地域に戻ってくる事例があった。こうした基盤を大切にしてほしい。

最後に、ニールについて、広報やホームページ、チラシなどによる周知に加え、企業だけでなく一般の市民にも「ニール」という言葉を身近に感じてもらい、関心を持ってもらえるような取組があると良い。

議長 ニールを一般の市民にも広く周知することで、就職先や企業を選ぶ際の判断材料にもなり得る。企業との直接的な関わりがない人にも、ニールの意味や取組を知ってもらうことは重要である。

G 委員 ニールや男女共同参画について、紙媒体や QR コードによる周知だけでなく、SNS を活用して市から積極的に情報発信することも必要ではないか。

情報を検索するのではなく、SNS を通じて偶然情報に触れる人を増やすことで、関心を持つきっかけになると考える。

D 委員

ニーフルは新潟県の制度であるため、新聞等を読まない市民には認知されにくい。市の SNS 等を活用し、「ニーフルとは何か」「どのような取組を行っているのか」を分かりやすく発信することで、制度の認知度を高めることが必要ではないか。ニーフル認定企業であることのメリットが、市民に十分伝わっていない。

G 委員

他市ではニーフルの発信はどのように行っているか。

事務局

ホームページで周知している市が多いと認識している。

G 委員

市のイベントや行政情報を発信する大きな枠組みの中に、男女共同参画やニーフルなどの情報も掲載することで、より多くの市民の目に触れる機会が増えるのではないか。

事務局

貴重な提案として受け止め、今後の情報発信について検討したい。

議長

重点目標 5 について意見はいかがか。

B 委員

ファミリー・サポート・センター事業については、制度そのものの認知度がまだ十分ではないと感じる。提供会員の内訳を見ると男性会員が少ないが、保育園への送迎などの支援であれば、退職後の男性も参加しやすいのではないか。制度の周知を進め、提供会員、特に男性会員が増えることで、利用者も安心して利用しやすくなり、制度の活性化につながると考える。

G 委員

子育て中の保護者は困った際にインターネットや AI で情報を検索することが多いため、ファミリー・サポート・センター事業などの支援制度については、検索や AI の回答で見つけてもらえるよう、ウェブ上での情報発信を充実させることが重要である。

議長

重点目標 6 について意見はいかがか。

A 委員

コミセンで新潟県男女平等推進相談室の案内を見たが、市の相談窓口との連携は取れているか。

議長

相談窓口は複数あることで利用者が相談先を選択できるため、望ましいと考える。市の窓口を利用しにくい人や周囲の目を気にする人もいることから、市以外にも県や警察など様々な相談先があることは重要である。また、相談内容については関係機関が連携して対応できる体制が整っている。

デート DV 予防啓発講座は、多くの中学校・高校で実施されることが望ましい。若い世代への予防教育に加え、家庭内の DV に気付くきっかけとなるなど、早期発見にもつながる可能性がある。

議長

重点目標 7 について意見はいかがか。

E 委員

帯状疱疹予防接種については、対象者への通知が行われているのか、申請

した方に補助が行われるのか。

事務局 対象者に直接通知を郵送している。

議長 乳がんと子宮頸がんの受診率が低いと感じるので、受診しやすい環境整備に努めてほしい。

A 委員 不育症治療助成事業の実績が 0 件であるが、今後も対象者が制度を利用できるように周知を継続してほしい。

議長 重点目標 8 について意見はいかがか。

F 委員 子どもの学習・生活支援事業は、学習支援だけでなく、子どもが親以外の大人と関わる機会や居場所づくりとしての役割も果たしており、子どもの成長にとって重要な取組であることから、評価できる。

議長 認知症サポーター養成講座において、小学生や大学生を対象とした周知・啓発に取り組んだことは評価できる。若い世代が認知症への理解を深めることは、地域で高齢者を支える意識の醸成につながると考える。

議長 全体を通して意見があれば。

H 議員 男女共同参画基本計画庁内推進会議による評価が全て B なのはなぜか。

事務局 所管課の評価が全て B であったため、庁内推進会議の評価も B になった。

(事務局から資料 2 令和 8 (2026) 年度事業計画について説明)

議長 基本目標ごとに進めていきたい。基本目標 I について、質問や意見はあるか。提案のとおり承認することで良いか。

全委員 (意見なし、承認)

議長 基本目標 II についてはいかがか。

H 委員 No.13 の経営能力の育成と創業への支援については、市と商工会議所だけでなく、移住・定住支援団体や創業支援を行う NPO 法人などとも連携しながら取り組むことが効果的ではないか。

事務局 移住・定住支援団体等や NPO 法人も相談窓口としての役割を担っているが、市と商工会議所は、創業を目指す人を対象とした「社長のたまご塾(創業塾)」や、起業後の補助金制度など、創業に向けた具体的な支援を実施している。

D 委員 経営能力の育成と創業への支援は女性だけに特化したものか。働く場での男女平等として、男性も女性も対象ということで良いか。

事務局 女性だけに特化したものではなく、男性も女性も対象としている。

F 委員 No.23 のファミリー・サポート・センター事業について、制度の存在は知っていたものの、利用によってどのように負担が軽減されるのか、どのような支援を受けられるのかイメージしにくく、事故や補償、家庭内への立入りなどにも不安があり、利用したことがない。利用者の声や活動の様子など、実

際の利用をイメージできる情報を発信することで、より幅広い子育て世代の利用につながるのではないかと。

事務局

ファミリー・サポート・センターに入会し、利用申し込みを行うと、実際に提供会員宅で子どもを預けるための事前打合せを行っている。保護者と子どもが提供会員宅に伺い、子どもが過ごす様子を確認し、提供会員と相談をする仕組みであり、利用への不安を軽減する上で有効である。しかし、この事前打合せや利用者の声などの情報発信については今後検討していきたい。

議長

基本目標Ⅱについて、提案のとおり承認することで良いか。

全委員

(承認)

議長

基本目標Ⅲについてはいかがか。

D委員

No.28 の AYA 世代とは何歳から何歳か教えてほしい。資料 1 と 2 について、一般市民は分かりにくい表記には、注釈をつけてほしい。

事務局

AYA 世代は 15 歳から 39 歳までである。注釈について承知した。

議長

基本目標Ⅲについて、提案のとおり承認することで良いか。

全委員

(承認)

議長

最後に全体を通していかがか。

全委員

(なし)

議長

それでは議事を終了する。

事務局

委員の皆様から貴重な御意見をいただいた。評価については、本日いただいた御意見に加え、追加等がある場合は、事務局まで御連絡いただきたい。